

2020年4月17日

山梨県森林環境部大気水質保全課環境影響評価担当 御中

昨夜突然、山梨県森林環境部大気水質保全課から電話があり「4月18日に予定していた公聴会を中止する」との連絡がありました。

その数日前には「新型コロナウイルス感染防止対策をした上で、4月18日に公聴会を実施する。傍聴人は認めず、公述人が1人ずつ呼ばれ担当者数人の前で公述する」旨の電話がありました。

その時にも電話をしてこられた担当者に私の考えを述べました。

「新型コロナウイルスの感染者が県内でも増加しており、感染の危険は迫ってきている。こんな状況下で信じられないような感染防止策をとってまで強行に実施しようとするのは承服できない。公聴会というのは、この地域の環境を守り、住民が安心して暮らすためにはどんな方策を講じなければならないかを住民みんなで知恵を出し合い考える場でなければならない。傍聴人も認めない、他の公述人の意見も聞けない公聴会は、ただ“公聴会を実施した”という事実を作るためだけではないのか。こんな形での公聴会には参加出来ない。是非、延期をして頂きたい。」と。

これに対して、担当者は「5月1日の県知事意見書提出の期限があるので延期できない」との返事、住民の意見を聴くと言いながらその機会を保障せず、住民をコロナ禍による危険にさえさらすこのやり方に強い憤りを覚えました。

そして昨夜の突然の中止の連絡、コロナ禍の危険は数日前と状況は変わっていません。

私は県の職員の方々が、「住民が安全に、幸せに暮らせるために仕事をしておられる。」「自治体がしっかりと住民目線で施策をしている」と思うからこそこの地で安心して暮らすことが出来るのです。

どうかこの新型コロナウイルスの感染が収束し、落ち着いた日常に戻ったときに、改めて公聴会を開いて住民の想いをしっかり聞いて頂きたいと思います。

下記に一住民の想いを添えて、お願いします。

私は大泉〇〇〇〇〇〇〇の住民です。

環境保全の立場から、主に近隣住民の繋がりや水の問題について意見を述べます。

ここを終の棲家にと居を構え、日々豊かな自然を心ゆくまで味わいながら暮らしていましたが、7年前突然降って湧いたように八ヶ岳南麓を横断する高速道路計画が発表され、我が家はそのルート帯に入っているというのです。

我が家の横には油川が流れており、平行して甲川、泉川、鳩川などいくつもの河

川が田畑を潤しています。我が家の周りの田んぼは、代々の農家の方々が大事に大事に手入れをされ、美味しいお米や野菜を作っておられます。

八ヶ岳南麓には縦横無尽に地下水脈がはしり、湧水を生み出しています。

我が家はその豊かな地下水の恩恵を受け、井戸水で暮らしています。

示されたルート帯は、この豊かな自然を一刀両断に切ってしまうものです。

工事によって地下水脈も分断されます。

水脈が切られたり、汚されたりすると私たちは命の水を失い、生きてゆくことが出来ません。環境調査で私たちの水を確保できると保障出来るのでしょうか。

田畑の水が支障なく確保できるのでしょうか。

環境調査をどのように行われるのか、具体的に聞かせて頂きたい。

1キロ帯は示されていますが、具体的に高速道路がどこを通るのか、どんなものが作られるのか詳しいことは何も知らされていません。そんな状況でどのように環境調査をされるのですか？

1キロ帯には、〇〇〇〇〇〇がすっぽり入っています。どこを通っても〇〇は分断されることになります。この地に魅せられて都会から移り住み、地元の方々に温かく受け入れて頂き、地域のひとつの〇として助け合って仲良く過ごしてきました。

県知事さん、森林環境部の職員の方々、一軒一軒、一人ひとりの住人のことを考えておられますか？ 7年前に突如知らされてから〇〇では、私たちの想いをどうやって伝えていこうかと毎月集まって話し合ってきました。豊かな自然の中で穏やかに暮らしたいとの想いでこの地に移り住んだ私たちは、この計画が示されて以降大きなストレスにさらされています。住人の人生を壊していることがわかっておられますか？

今回、私は水の問題に絞って環境調査についての意見を述べましたが、空気・騒音・植生・生態系等々、心配されることは沢山あります。

また、計画の進め方についても納得できないことが山ほどあります。大泉町の我が家がルート帯に入っているこの計画が、突然「葦崎都市計画道路1・4・1号双葉・葦崎・清里幹線」なのかも全くわかりません。

どうかルート帯に入っている私たちが納得できる説明をして下さい。

環境保全のための一番よい方法は、新たに高速道路を作るのではなく、国道141号線を改修することだと私は思います。